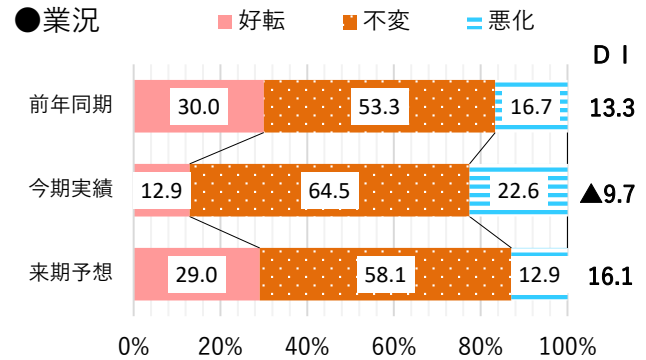


製造業

業況、売上、採算

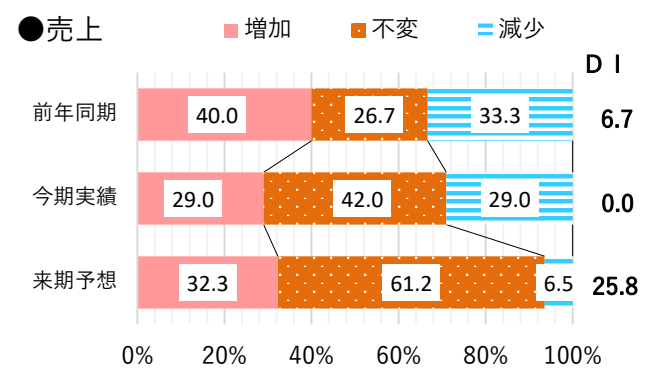
今期（2025.4～6）の業況判断DIは▲9.7で、前年同期（2024.4～6）と比べ23.0ポイント低下しました。

来期（2025.7～9）の業況DIは今期（2025.4～6）と比べ25.8ポイント上昇しています。



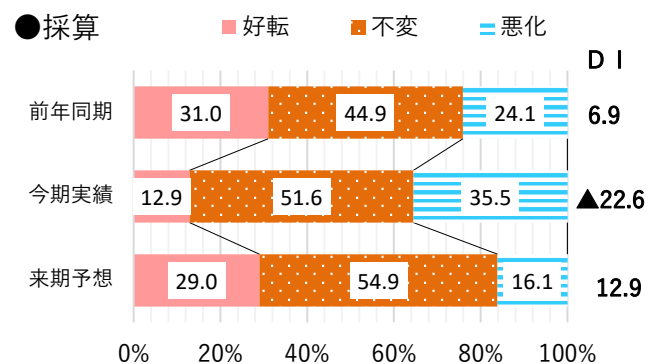
今期の売上DIは0.0で、前年同期と比べ6.7ポイント低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ25.8ポイント上昇すると予想しています。

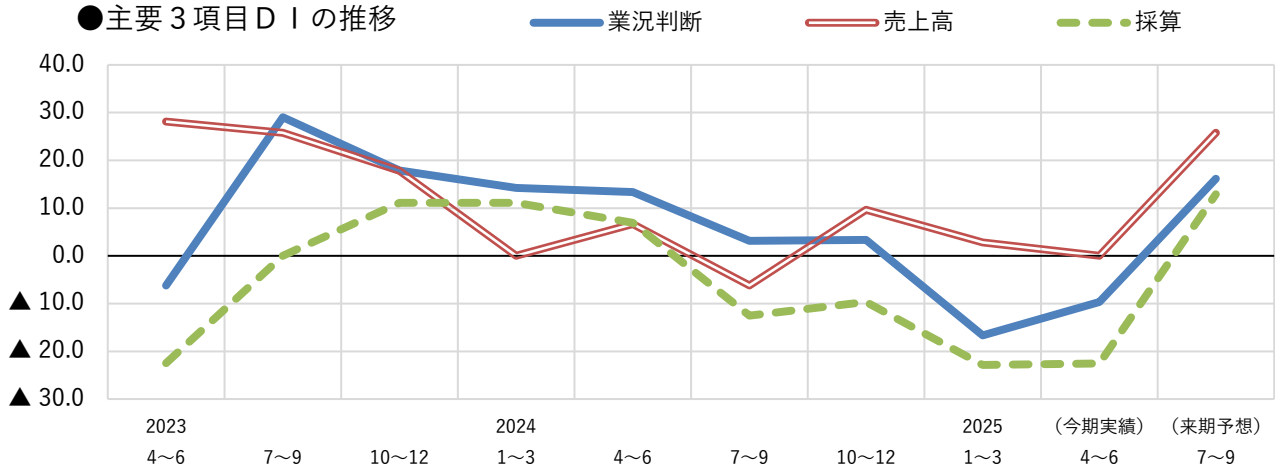


今期の採算DIは▲22.6で、前年同期と比べ29.5ポイント低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ35.5ポイントと大幅に上昇すると予想しています。



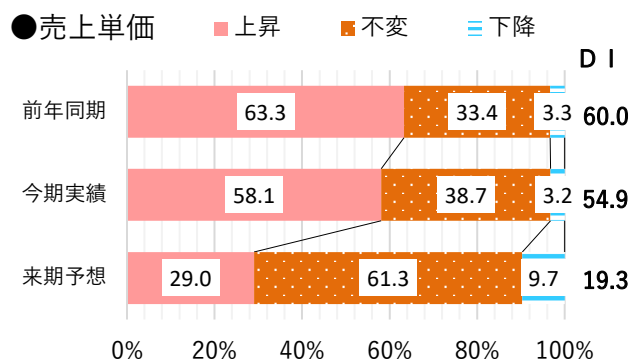
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

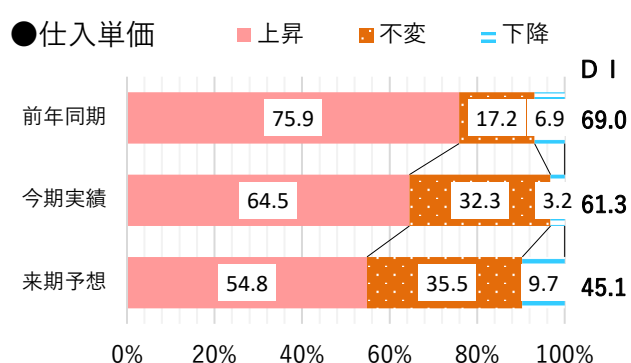
今期の売上単価DIは54.9で、前年同期と比べ5.1ポイント低下しました。

来期の売上単価DIは今期と比べ35.6ポイントと大幅に低下すると予想しています。



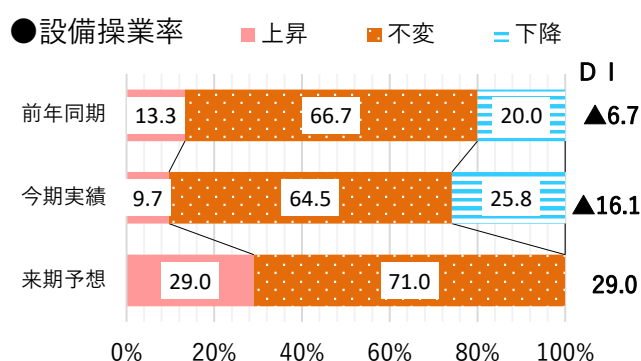
今期の仕入単価DIは61.3で、前年同期と比べ7.7ポイント低下しました。

来期の仕入単価DIは今期と比べ16.2ポイント低下すると予想しています。



今期の設備操業率DIは▲16.1で、前年同期と比べ9.4ポイント低下しました。

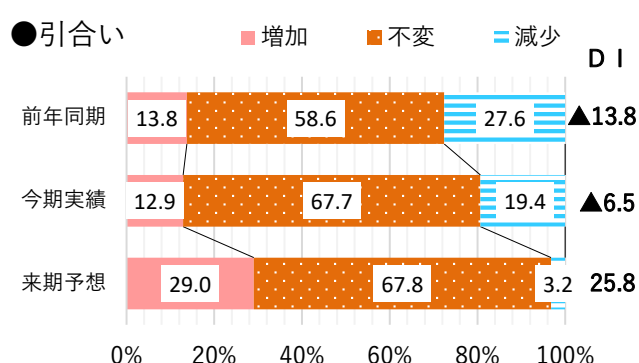
来期の設備操業率DIは今期と比べ45.1ポイントと大幅に上昇すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲6.5で、前年同期と比べ7.3ポイント上昇しました。

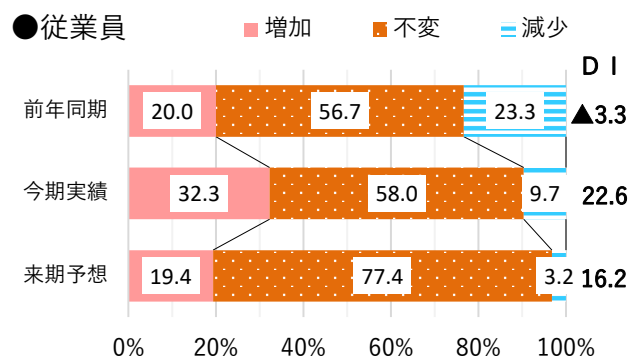
来期の引合いDIは今期と比べ32.3ポイントと大幅に上昇すると予想しています。



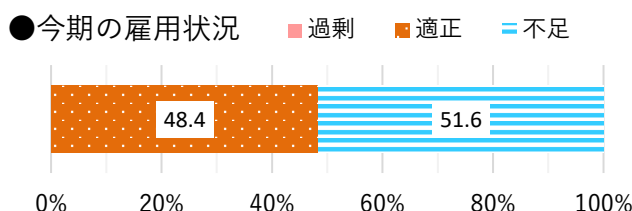
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは22.6で、前年同期と比べ25.9ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは今期と比べ6.4ポイント低下すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は48.4%、不足していると回答した企業の割合は51.6%でした。



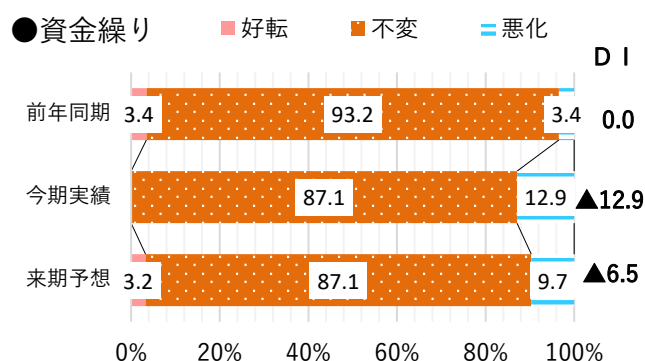
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、32.3%を占めました。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	4
	不足	6
不変だった	過剰	0
	適正	10
	不足	8
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	2

資金繰り、設備投資

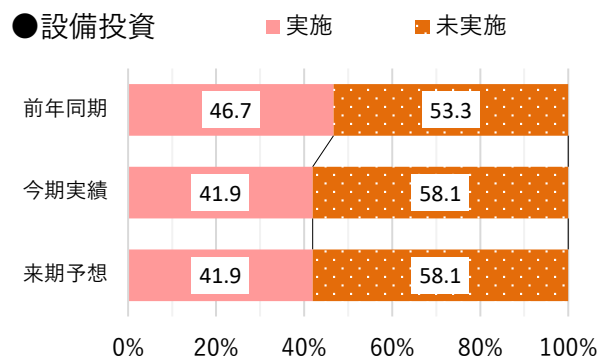
今期の資金繰りDIは▲12.9で、前年同期と比べ12.9ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ6.4ポイント上昇すると予想しています。



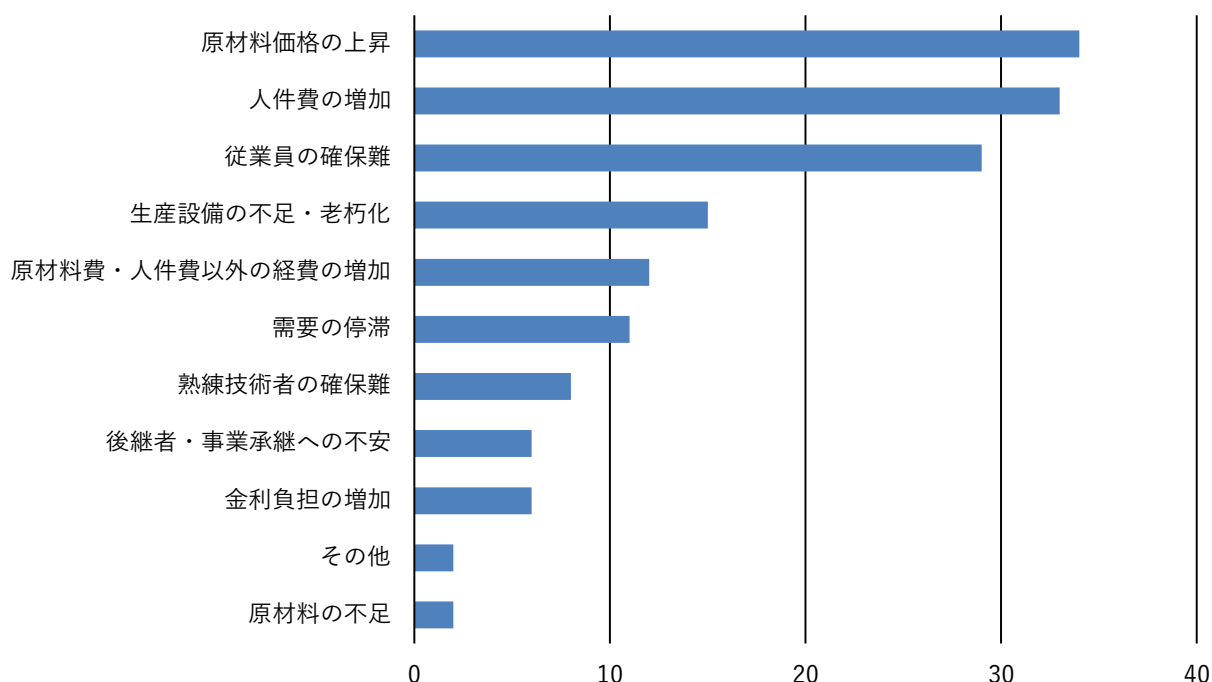
今期の設備投資は41.9%が実施と回答し、前年同期と比べ4.8%低下しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「OA機器」の順です。

来期は41.9%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

■2025年の2月と3月に、夏季商材を中心にカテゴリー別に価格改定を実施し、店頭の販売価格も想定した販売価格よりも上昇した。主食の米、野菜の販売価格が大幅に上昇した影響によるものだと考えられるが、消費者の財布の紐は固く、嗜好品の購買は控えられたと推測する。仕入れ価格に関しても、原材料、副原料、包装資材等全てにおいて上昇傾向が見られ、業況悪化の要因になっている。

(食料品)

■塩数の子製品と加工食品の製造販売が中心だが、コストの高止まりで苦戦した。(食料品)

■人件費、物流費、原材料費が上昇した。(食料品)

■生産量が増えているため、売上が上昇し、増産に伴う設備投資をしている。従業員数は増加したが、希望人数には至っていない。(食料品)

- 製品の値上げ効果で粗利率がやや改善した。（食料品）
- 全てのものが価格上昇している。（食料品）
- 大型案件のほぼすべてにおいて着工時期遅れが発生しており、当初の計画通りに進まないのが、売上計上額に大きく影響している。（金属製品）
- 賃金のアップが実施できないと、従業員の生活の保証及び人材確保が難しいのが大変である。
（金属製品）
- 加工単価の改定を行った。（金属製品）
- 売上苦戦を強いられている中で、平均4.4%の賃上げを実施できた。（飲料）
- 売上高は農業分野で買い控えが発生しており、農業製品価格が上昇せず農家負担が増加している。仕入価格は、原油価格高止まりで主要原料価格が上昇している。製品仕入価格は仕入先の労務費、物流費等を受け入れているため上昇している。また、人材確保の面では、2名採用しギリギリながら何とか企業活動を維持できている。今期賃上げを実施。（プラスチック）
- 原材料の仕入れ価格の高騰、人件費の上昇等があるも、販売価格への転嫁が遅れた。（プラスチック）
- 売上高の減少に伴い収支が悪化した。（紙製品）
- 総ゴム製の靴と安全靴等の変化はなかったものの、工業用ゴム製品の低調が業績に響いた。
（ゴム製品）
- 仕入価格が上昇し、資材の入荷が遅れている。（その他繊維製品）

[来期の業況について]

- コロナが明けてからの社会の動きが活発になるとともに、引き合いも増えPB商品の受注が増えている。人員問題に関しては非常に逼迫しているため、時給単価の改定や求人媒体への投資を増やしているが希望の人材までは集まらない現状であり、増産体制に伴い、人員確保は問題である。（食料品）
- 来季の状況も今期の傾向の延長線上にあり、業況の回復、好転は望めないし、今秋の最低賃金の上昇は業況悪化に一層の拍車を掛けると推測される。（食料品）
- 数の子製品は9月以降から年末に向かって出荷が増加するため、業況は好転する見通し。（食料品）
- 製品の値上げ効果で粗利は改善するが仕入価格の更なる上昇がありそう。（食料品）
- 人件費、物流費、原材料費の上昇を予測する。（食料品）
- 大型案件が遅れながらも動き出してきており、やや明るい見通しにある。原材料価格は一時的かもしれないが、落ち着いた状況が続いている。（金属製品）
- 受注単価が下がってきているので、大変である。（金属製品）
- 加工単価の上昇以外は不変と予測する。（金属製品）
- インバウンドの増加に伴い、市場も緩やかに回復傾向にあり売上増加が見込まれる。（飲料）
- 売上高は買い控えから一部回復すると予想。仕入価格は、原油価格高止まりで主要原料価格が上昇、製品仕入れ価格は仕入先の労務費、物流費等を受け入れているため上昇。人材確保は2名採用しギリギリながら何とか企業活動を維持できている。今期賃上げを実施。（プラスチック）
- 給与ベースアップの実施も実らず、人材確保が難しいので本格的に外国人の採用を考える。
（プラスチック）
- 売上高増加を見込んでいる（紙製品）